

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

非ウイルス性を含めた肝疾患のトータルケアに資する人材育成等に関する研究

研究分担者 藤井英樹 大阪公立大学医学部附属病院 肝胆膵内科 講師

研究要旨

近年、本邦における肝がんや肝硬変の背景肝疾患は変容してきており、ウイルス性肝疾患が減少した一方、非ウイルス性肝疾患である、肥満や生活習慣病に起因する非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）及びアルコール性肝疾患（ALD）が増加している。医療従事者や肝炎医療コーディネーター（肝 Co）の活動において、従来のウイルス性肝疾患に加えて、今後は生活習慣に起因するこれらの肝疾患への対応力が求められる。一方 ALD 患者を支援するための資材は十分ではないため、本研究はその創出を目的としている。令和 4 年度は ALD の啓発や節酒指導に役立つ資材として、①目標書き込みマグネット、②目標書き込みシール、③押し待ち受け、④押しペン立てを作成した。今後は大阪府での展開と効果検証を行い、さらに全国での利活用を目指す。

A. 研究目的

近年、本邦における肝がんや肝硬変の背景肝疾患は変容しており、ウイルス性肝疾患が減少した一方で、非ウイルス性肝疾患であり、肥満や生活習慣病に起因する非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）と、アルコール性肝疾患（ALD）が増加している（Enomoto H et al. J Gastroenterol. 2020, Tateishi R et al. J Gastroenterol 2019）。医療従事者や肝炎医療コーディネーター（肝 Co）の活動において、従来のウイルス性肝疾患に加えて、生活習慣に起因するこれらの肝疾患患者への対応も求められるようになってきている。しかしながら、ALD 患者への啓発や教育およびそれを支援する肝 Co の活動に資する資材は十分でない。また、ALD に対する節酒の必要性は多くの肝 Co を含む市民が理解しているが、一方で具体的な活動方法がわからない、活動の際の資材が少ないといった課題も指摘されている。

本研究ではこうした肝 Co の活動を支援・促進するための資材等の創出を目的とする。

B. 研究方法と結果

1) ALD 啓発及び教育のための資材作成
ALD における節酒サポートツールを開発した。

○ 目標書き込みマグネット

肝 Co が患者さんに NAFLD や運動、栄養（飲酒も含む）の指導をする際に使用出来る 15cm 大のマグネットを作成した。このマグネットは、親しみやすい大阪のおばちゃん、具体的に節酒を訴えるように、なにを、1 日何杯まで飲むかの目標を記載できる。例えば、ビールは 1 日 2 本まで、という具合である。水性マジックを用いれ、何度でも修正可能である。本ツールは自宅飲みの患者を対象としており、冷蔵庫に貼っておくことで効果を発揮する。しかしながら現在ではガラスドアの冷蔵庫が主流になりつつあ



b) イケメン



c) 猫



り、冷蔵庫に買い替えたならマグネットがつかなくなったというケースも増加している。

○ 目標書き込みシール

上記の理由でマグネットが使用できない場合を想定し、缶に直接貼り付けられるシールも作成した。



○ 押し待ち受け

携帯電話の待ち受け画面に設定することで節酒のきっかけになるグッズを考案した。世間の人々の3大推しといえる a) 美女、b) イケメン、c) 猫が直接語りかけるイメージである。

a) 美女

希望者はHPより上記9種類の画像から好きなものを選択し、ダウンロード出来るように準備を進めている。

○ 押しペン立て

スマートフォンを持っていない患者も高齢者を中心に存在すると考えられる。そこで、机にも置ける、便利なペン立てを作成した。

D. 考察

佐賀大学の高橋らが令和2年度に実施した調査では、肝Coとしての活動にNAFLDを対象とした疾患啓発や療養指導はあまり含まれていない傾向であったが、生活習慣病や

肥満症を有する対象は多くの職種が日々の業務で数多く遭遇しており、その中で NAFLD や ADL の啓発、指導を展開することは非常に有益と考える。節酒に関しては既にスマートフォンの節酒アプリも存在し、本研究班において大阪という地域特性を活かした、『くすっと笑えて節酒出来る』『出来るだけアナログ感を出した』ツールの開発に取り組んだ。分担者は R4 年度(最終年度)に今回の仕事に関わったため、ツールの開発のみで年度が終了した。今後も、機会が与えられれば今回作成した資材を展開しつつ、アンケート調査も同時に行って効果検証を行なう予定である。

E. 結論

非ウイルス性肝疾患のトータルケアに肝 Co が貢献するべく、学習機会や資材、エビデン

ス創出を継続的に行う。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的所有権の取得状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

